

27U-pm06S

皮膚常在細菌におけるマクロライド耐性遺伝子 *erm(X)* の拡散
○青木 沙恵¹, 中瀬 恵亮¹, 野口 雅久¹ (¹東京薬大薬・病原微生物)

【目的】近年、本邦において、マクロライド耐性 *Propionibacterium acnes* (アクネ菌) の著しい増加が認められている。その一因として、マクロライド系薬の標的部位をメチル化する酵素をコードする遺伝子 *erm(X)* を保有する *P. acnes* の増加があげられる。*erm(X)* は、外來性遺伝子と考えられているが、その由来や拡散の範囲、獲得機構は不明である。そこで、本研究では、皮膚常在細菌における *erm(X)* の保有状況について研究した。

【材料・方法】2013～2016年に虎の門病院皮膚科外来を受診したざ瘡患者より分離された細菌 310 株を使用した。薬剤感受性は寒天平板希釈法により測定した。マクロライド耐性遺伝子 *erm(X)* の解析は PCR 法により行い、*erm(X)* 保有 *P. acnes* の近縁性は、pulsed-field gel electrophoresis (PFGE) により解析した。

【結果】各細菌種における *erm(X)* 保有率は、*P. acnes* で 8.7% (9/103 株)、*P. avidum* で 76.5% (13/17 株)、*P. granulosum* で 40.0% (6/15 株)、*Actinomyces* 属で 45.5% (5/11 株)、*Staphylococcus epidermidis* で 0.8% (1/122 株)、*Eubacterium limosum* で 100% (1/1 株) であった。また、*erm(X)* 保有株のうち、*P. acnes*、*P. granulosum*、*Actinomyces* 属で、トランスポゾン Tn5432 にコードされる挿入因子 IS1249 が検出された。以上のことから、皮膚常在細菌において *erm(X)* が拡散していることが明らかとなった。

【会員外共同研究者】林 伸和 (虎の門病院・皮膚科)